

---

# 連載になるかもしれない、ネタ。?

海野 真珠

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

連載になるかもしれない、ネタ。？

### 【Nコード】

N2751U

### 【作者名】

海野 真珠

### 【あらすじ】

またもや、#twnovelに加筆修正。

連載になるかもしれない、ネタ？

(前書き)

前作と関係があるような、ないような・・・？

「嫁いでくれぬか」

澄んだ空気の、星の綺麗な夜だった。

珍しく晩酌の誘いに来た父王と供にテラスで星見酒を楽しんでいれば、唐突にかけられた言葉。

しかし、驚きはなかった。

むしろ、どこか安堵さえしていた。

取り巻く環境から、いずれは来ると覚悟していた。

18歳。適齢期。

20歳までに第一子をもうけることを考えれば、遅すぎるのかも  
しない。

「何処へでも」

グラスを傾け、了承を伝えれば、なぜか苦い顔をされた。  
嫁げと言ったのは、自分であろうに。

「・・・よいのか？」

「わたくしに、否は申せませんでしょうか？」

何をいまさら、と笑う。

わたくしの意味など、無いも同然であろうに。

ただ・・・

「ひとつだけ、我儘を申しても？」

聞き入れてくれるとは、爪の先ほども思っていないが、  
いうだけ、言ってみてもいいだろう。  
そんな、軽い気持ち。

「申してみよ」

どこか嬉しげな父王に苦笑した。

「わたくしに剣を捧げたあの者を、供に」

チラリと、テラス入口に立つ、騎士を見る。

数年前、唯一わたくしにだけ、その剣を捧げた、騎士。  
常に傍らにあり、わたくしのみを守る、剣。

もの静かなその男は、この話を一体どう思うのか。

「あの者を、か・・・？」

「はい。最初で最後の、我儘ですわ」

18年間の月日の中で、ただの一度も言ったことのない、我儘を。  
嫁ぐと決まったその瞬間に、夫となる男とは違う、男のために、  
使う。

はたから見れば、正気をも疑われるであろう、行為。  
しかし、わたくしに、後悔はない。

「男連れで、嫁ぐ、と？」

「わたくしに剣を捧げた、護衛ですわ」

どうせ、わたくしに従者などつかないのだから、と笑う。

わたくしを取り巻く環境は、わたくしが一番知っている。

昨日16歳で嫁いだ妹姫よりも、わたくしの方が嫁ぐのが遅いのも、そのため。

「わしは、オマエが一番、愛おしい」

「父上からの愛を、疑ったことなどございませんわ」

だからといって、いつまでも此処こゝには居られない。

「……数多の側室を持つ王の、正妃となれ。子のおらぬ王の、世継ぎを産め」

その言葉で、わたくしの嫁ぎ先を知る。

大国として名をはせる、しかし、歴史の浅い国。

陰で成り上がりと言われる、かの国。

小国だが、歴史ある我が国。

欲しいのは、互いの名譽プライド。

なんと、馬鹿馬鹿しいものか。

しかし、わたくしの嫁ぎ先として、これ以上の国こゝろは、ない。

「国王陛下の御心のままに」

臣下としての礼を取り、物言いたげな父王を残し、席を立つ。

一度も振り返ることなく、テラスを出る。

付き従うのは、騎士、ただ一人。

「聞きましたね？」

薄暗い廊下を、ただ前を見て、進む。

「はい」

静かな声が、響く。

「近日中には、出発になるでしょう」

振り返ることなく、告げる。

一分の乱れもなく、付き従う、足音。  
それに、口元に笑みをはく。

「わたくしと、供に」

自室の扉を開け、1歩、踏み込む。

「貴女様の御心のままに」

振り返り、入口で膝を折るその男に差し出す、右手。

「貴女様の御傍より他に、この身を置く場などございません」

恭しく取られたその指先に、何度目かわからない忠誠の口付けを、  
受ける。





## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2751u/>

---

連載になるかもしれない、ネタ。？

2011年7月23日12時00分発行